

II まちの概況把握

1. 犯罪および事故発生状況の情報収集

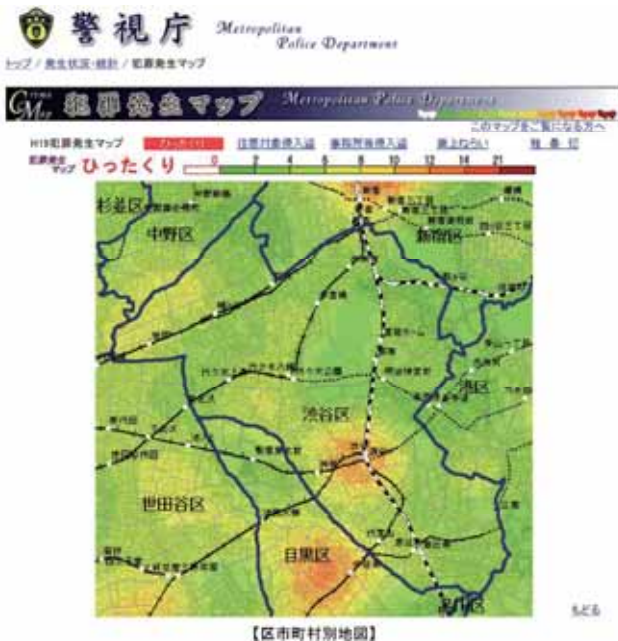
犯罪発生状況の情報収集

防犯まちづくりのためには、まず地域の現状を知ることが重要です。地域でどのような犯罪がどの程度起きているかを示す犯罪発生情報は、警察が処理した確実性の高い情報ですので、最初に確認するとよいでしょう。

これらの情報は、地域を管轄する警察署の生活安全担当課や交番で入手することができます。また、各都道府県警察のホームページでは、犯罪発生状況が公開されています。インターネットで手軽に収集することが可能です。

地区の犯罪発生情報は、警察や防犯協会が定期的に発行している交番だよりや安全ニュースといった広報紙にも掲載されます。これらの広報紙を綴じこんで保管しておく、長期間にわたる変化を知ることができます。

■犯罪発生マップ（警視庁）



■月間警察署別/校區別発生状況（愛知県警）

月間警察署別・校區別発生状況

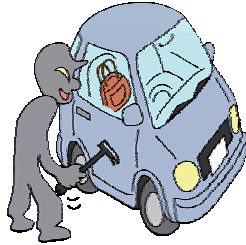
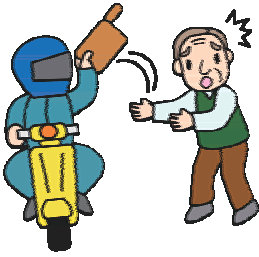
月間発生状況（平成20年12月）

表の色分けは前月と比較して **注増勢** (00%以上増加) **注減勢** (100%以上増加)

○校区別発生状況は番号をクリックして下さい。

	侵入盗被害 住居内	ひった くり	自動車 盗	オートバ イ盗	自転車 盗	物品むら い	車上り 占	自転車 乗取 り	強盗	凶犯	計	
千種	24	9	9	2	15	54	7	25	0	3	0	142
東	14	5	15	4	11	30	5	24	2	5	2	156
北	22	7	4	10	23	55	25	57	1	2	4	254
西	22	12	7	4	15	62	12	15	4	1	1	209
中村	29	19	9	5	5	100	15	37	3	4	2	272
中	39	27	16	1	6	95	6	72	3	0	2	235
稲村	17	15	3	1	7	13	2	12	0	1	1	57
瑞穂	17	6	4	10	3	25	6	17	4	1	1	30
新田	13	9	9	2	6	44	11	19	2	0	0	106
甲川	32	11	15	2	17	100	32	65	3	1	2	289
東	24	6	6	13	9	65	25	34	10	0	0	153
津	15	9	5	10	15	141	36	32	5	2	0	264
池上	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	3
緑	36	21	4	15	25	75	25	32	14	1	1	230
稲葉	14	6	3	5	11	45	19	43	0	2	1	144
天白	20	13	2	2	15	50	17	11	3	1	1	135
守山	56	29	5	15	18	61	36	32	5	2	1	220

※地域によって、町丁別や警察署の管轄別に集計されていることがあります。



○犯罪発生状況として、どのようなデータが公開されているかはさまざまです。対象となっている犯罪の罪種・手口や期間に違いがあるので注意しましょう。

○まちの犯罪発生状況を把握するには、侵入犯罪（空き巣、忍び込み、事務所盗など）と街頭犯罪（ひったくり、車上ねらい、自動車盗など）に着目するとよいでしょう。

○犯罪発生状況は、前年度との比較の形で公開されることもあります。前年度に比較して増えた犯罪、減った犯罪に注目してみるのもよいでしょう。

地区間で発生状況を比較する場合には、もともとの世帯数や人口に差があることに注意しましょう。世帯数が多く、人口が多い地区ではそれだけ犯罪も多く発生する可能性があります。このため、犯罪発生数を世帯数や人口で割った「発生率」で比較をすることが大事です。

たとえば、下の表の場合、犯罪発生件数で比較するとア地区での発生件数が最も多いですが、世帯で割り算した発生率ではウ地区での発生率が最も高くなります。世帯数や人口のデータは市区町村のホームページで入手可能です。率の計算は、表計算ソフトを使うと便利です。

地区名	犯罪発生件数 (A)	世帯数 (B)	発生率 (C=A*1000/B)
ア地区	25	5000	5.0
イ地区	20	2500	8.0
ウ地区	10	1000	10.0

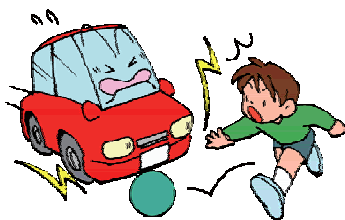
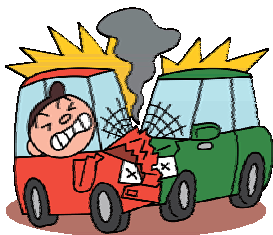
※犯罪発生状況の情報公開による風評被害を招いたり、捜査の支障をきたす恐れもあるため、情報を得られない、あるいは得られる情報が限定されることがあります。

交通事故発生状況の情報収集

交通事故状況は、以下の場所で入手可能です。

- ・管轄の警察署（交通交通課）／交番
- ・インターネットホームページ
- ・財）交通事故総合分析センター（ITRDA）

データの種類はさまざまですが、最近は県警などのインターネットのホームページ（交通事故マップ）による情報提供が充実してきています。例えば、警視庁が提供している交通事故マップでは、死亡事故の詳細な情報が得られます。ITRDAでは全国の最新統計情報を得られますが、自分の町内の詳細なデータは入手できません。管轄の警察署によっては、交通事故ピンマップ（地図上に事故種別によって色が異なるピンやシールを発生地点に貼ったもの）など、身近な交通事故データを得ることができます。



2.関係団体へのヒアリング調査

防犯まちづくりに関係する団体へのヒアリング調査を行い、地域の状況や課題を把握します。対象としては、自治会・町内会、公民館、PTA、婦人会、老人会、青年会、商店会、青少年健全育成会、防犯協会・交通安全協会やまちづくり関係のNPO団体などが想定されます。また、活動の実践段階で協力が必要となる主体として、学校、自治体（主に市町村）、警察があります。

ヒアリング調査では、すでに行われている活動の内容や支援策も聞きます。「子ども110番の家」の一覧や地図などが作成されている地域も少なくありません。

この調査には、関係団体が顔を合わせ、協力して対策を進めるためのネットワーク構築の意味も含まれています。地域内で複数の団体がパトロール活動を行っている場合、時間・場所の重複をなくして効率化したり、空白部分を見つけたりすることができます。また、パトロール活動以外に必要な活動が見えてくるかもしれません。

さらには、防犯活動だけでなく、交通安全に関する活動、清掃や花植えなどの美化活動、趣味・サークル、コミュニティ活動などとの連携も考えられますので、幅広くヒアリング調査を行い、既存の地域の物的・人的資源を把握することが大事です。

コラム：子ども110番の家

「子ども110番の家」の目印として、それぞれの設置主体が独自のマークを作製しています

幼児・児童を対象とした誘拐事件、殺傷事件が連続して発生したことを契機として、被害児童等が助けを求められることができる民間協力の拠点「子ども110番の家」の活動が、PTAや自治体等を主体として各地域で広まっています。

■東京都の子ども110番の家のマーク



引用：警視庁 生活安全総務課 生活安全対策第三係 HP より

3.住民へのアンケート調査

ここでは、おもにアンケート調査によって住民のニーズや犯罪不安を把握する方法を実例を通じて紹介します。

3.1 犯罪不安や地区の主観評価

下のアンケート票は、犯罪や交通安全など地域の安全・安心に係る住民意識を把握するために、千葉県内のある地区で実際に使われたものです。

I 地区のまちの様子と歩行時における安全性についておうかがいします。					
問 1-1 お住まいになっているまちの管理状況（清掃等の状況）について、どのようにお感じになっていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。					
1 大変よく管理されている	2 よく管理されている	3 あまり管理されていない	4 まったく管理されていない		
問 1-2 このまちは、自動車との交通事故に対する安全性が高いと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。					
1 かなり安全性が高い	2 やや安全性が高い	3 やや安全性が低い	4 かなり安全性が低い		
問 1-3 このまちは、路上での犯罪（ひったくり、恐喝、ちかんなど）に対する安全性が高いと思いますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。					
1 かなり安全性が高い	2 やや安全性が高い	3 やや安全性が低い	4 かなり安全性が低い		
II あなたやご家族、所有する自動車等が犯罪被害に遭う不安と対策についておうかがいします。					
問 2-1 あなたやご家族の方が、下の A から E の犯罪被害にあうかもしれないという不安はありますか。あてはまるものそれぞれ 1 つに○をつけてください。					
A 路上犯罪（ひったくり、恐喝、ちかんなど）					
1 かなり感じる	2 やや感じる	3 どちらともいえない	4 あまり感じない	5 感じない	
B ご自宅への泥棒（空き巣、居空き、忍び込み）					
1 かなり感じる	2 やや感じる	3 どちらともいえない	4 あまり感じない	5 感じない	
C 自動車への犯罪（自動車盗、車上ねらい、部品ねらいなど）					
1 持っていない	2 かなり感じる	3 やや感じる	4 どちらともいえない	5 あまり感じない	6 感じない
D バイクへの犯罪（バイク盗、部品ねらいなど）					
1 持っていない	2 かなり感じる	3 やや感じる	4 どちらともいえない	5 あまり感じない	6 感じない
E 自転車の盗難					
1 持っていない	2 かなり感じる	3 やや感じる	4 どちらともいえない	5 あまり感じない	6 感じない

■アンケートを集計した地図
(犯罪の不安がある所)



3.2 地図を使ったアンケートの例

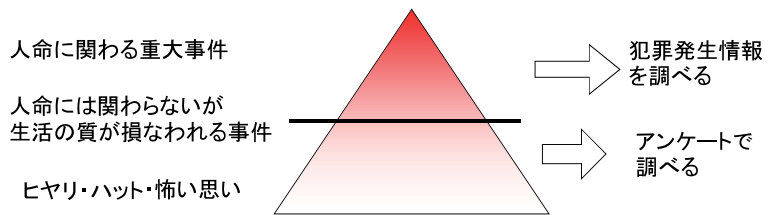
愛媛県のある地区では、校区の地図を掲載したアンケート票を用いて、子どもの「危険を感じる場所」や、保護者の「遊ばせたり行かせたりしたくない場所」に印をつけてもらいました。

危険の種類は「交通事故」、「犯罪」、「その他の事故」(転倒や溺水)の3区分とし、のべ2325箇所の回答がありました。

左の図のように、回答のあった箇所は学区ごと、危険の種類ごとに、A0サイズの地図(縮尺1/3000程度)に集計されました。この結果は、安全マップづくりのまちあるきのルートを決める上でも活用されました。

3.3 被害実態調査

ひとくちに犯罪といっても、殺人や強盗のような人命に関わるような重大事件から、自転車盗や落書き、不法侵入のような人命には関わらないものの、生活の質が損なわれてしまうような事件までさまざまです。また、事件として警察に通報するには至らないまでも、ヒヤリとしたり怖い思いをすることもあります。これらを表現すると下図のようになります。



防犯まちづくりを進めていくためには、犯罪発生情報だけではなく、住民に対するアンケートを実施し、被害実態を幅広く収集するのが有用です。

特に、子どもの防犯対策では、どこでどのような危ない経験があるかをたずねることで、その場所や時間帯を明らかにし、その場所の改善や防犯活動に生かすことができます。

■子どもの犯罪危険地図



資料：埼玉県和光市子ども防犯ネット

埼玉県のある市では、小学生中学生の保護者たちの団体が、子どもたちの危険経験をアンケート調査することで、危険な場所を改善する活動に取り組んでいます。小学3年生～中学3年生約2500人にアンケート調査を行った結果、4人に1人が危険な目にあつたことが明らかになりました。アンケート調査後に、危険な場所のマップを作成し、大人たちがその場所で実地調査(フィールドワーク)を行い、改善策を議論することで、実際の改善につなげています。

なお、アンケート調査を行う際には次のような配慮や工夫が必要です。

- アンケートは無記名で行います。また、アンケート用紙を持ち帰ってもらい家庭で記入してもらい、アンケートを回収する際は封筒に入れてもらうなど、個人がどのような回答をしたかが他の人に分からないようにします。子どもの行動は学年によって大きく違うため、さしつかえがなければ、学年・性別を尋ねます。
- 小学校低学年の場合は保護者と一緒に記入してもらいようにします。高学年からはアンケート用紙の文言を工夫することで自分だけで記入してもらうことが可能です。
- 危険体験の種類（What）、場所（Where）、何月の何時ごろか（When）、どのような被害だったか（How）など4W1Hの情報を尋ねるようにします。
- 危険経験の種類は、モノやお金を無理やり取られた、声をかけられた、後をつけられた、など具体的な項目から選択してもらい必要があります。漠然と尋ねても「不審者」などあいまいな回答になりがちです。
- 場所の情報は、改善策を考える際に重要です。地図に記入してもらうのが最も確実ですが、駐車場、公園などいくつかの選択肢の中から選んでももらうことも可能です。
また、実地調査の際には、季節によって日没時間帯が異なることに留意します。

■子どもの危険体験アンケート

しつもん9. あなたは、小学校に入学してから今までに、つぎのようなできごとに、あったことがありますか。なかった、あったのどちらかに○をつけて、あった人は()のなかに何回あったか数字を書いてください。ただし、

□ じぶんの家や学校の中で起こったこと
□ じぶんの家の人・親せき・学校の先生・ともだちにされたこと

は書かないでください。○をつけおわったら、お父さん・お母さんにこのページを見せてつづきを書いてもらってください。

できごとの種類	小学校に入学してから これまでに	あった人は このページに
ア. ものやお金をひったくられたり、むりやり取りあげられたりした(されそうになった)。	なかった・あった ()	8ページ
イ. たたかれたり、ものをぶつけられたり、手や足をつかまれたり、からだをさわられたりした(されそうになった)。	なかった・あった ()	9ページ
ウ. ついてこないか、荷が買ってあげようか、車に乗らないかなどときめわたり、どこかへつれて行かれそうになったりした。	なかった・あった ()	10ページ
エ. 盗いかけられたり、後をつけられたりした。	なかった・あった ()	11ページ
オ. エッチなことを言われたり、はずかしいものを見せられたりした。	なかった・あった ()	12ページ
カ. しらないうちに、もちものをぬすまれたり、ぬすまれそうになった。	なかった・あった ()	13ページ
キ. そのほかの、こわいこと・いやなことをされたり、されそうになった。	なかった・あった ()	14ページ

保護者の方へ：
(なかった・あった)の答えを見て、
続きを記入してください

すべて「なかった」 → 15ページへ

ひとつでも「あった」 → 上で指定されたページと地図に
すべて記入してから
15ページへ(記入要領参照)

-A-7-

ア. ものやお金をひったくられたり、むりやり取りあげられたりした(されそうになった)。
そのできごとについて、おしえてください。

	いちばん 最近	2ばんめ	3ばんめ
それがあったのは、.....	何年生の 何月ごろ	何年生の 何月ごろ	何年生の 何月ごろ
その日は、.....	1 2	1 2	1 2
1. 学校のある日 2. 休みの日	休みの日	休みの日	休みの日
だいたいの時刻は、.....	何時ごろ	何時ごろ	何時ごろ
だいたいの場所を、「A1」「A2」などの番で 地図のうえに書いてください。.....	A1	A2	A3
その場所は、どのようなところですか、.....	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6
3. 駅やお店のなか 4. バスや電車のなか 5. 空き地 6. 道端 7. その他	(7)	(7)	(7)
そのとき、だれかといっしょにいましたか、.....	1 2 3 4 (5)	1 2 3 4 (5)	1 2 3 4 (5)
1. いなかった 2. 友だち 3. おうちの人 4. そのほかの大人 5. その他			
そのできごとは、どのようなことでしたか、.....	1 2 3 4 (5)	1 2 3 4 (5)	1 2 3 4 (5)
1. ものやお金をひったくられた 2. おどかされて、ものやお金を取りあげられた 3. かくすで、ものやお金を取りあげられた 4. 何人も取りこまれて、お金をよせといわれた 5. その他.....(ことばで書いてください) →			
そのとき、あなたはどのようにしましたか。(あてはまる番号 をせんばん書いてください).....	1 2 3 4 (5)	1 2 3 4 (5)	1 2 3 4 (5)
1. 何もなかった・できなかった 2. 哭声で助けを求めた 3. 走って逃げた 4. ぼうはんブザーやベルを鳴らした 5. その他.....(ことばで書いてください) →			
【保護者の方がご記入ください】この出来事について、学校やPTA、ご近所の方などに連絡や相談をなさいましたか。当てはまる番号をすべてお書きください).....	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
1. 担任の先生など学校に連絡・相談した 2. 近所の人に話した 3. PTAの関係者に連絡・相談した 4. 警察に連絡した 5. 自分の親や兄弟・親戚に連絡・相談した 6. 誰にも連絡・相談しなかった 7. 今回初めて知った			

-A-8-

資料：科学警察研究所犯罪予防研究室

4.安全マップづくり

4.1 目的



日本の治安は、国際的にみても極めて良好な時期が長く続いてきました。そのため、都市計画やまちづくりに防犯の視点が加えられることはあまりありませんでした。また、近年のライフスタイルの変化やコミュニティの衰退は、犯罪の起こりやすい状況を生んでいます。

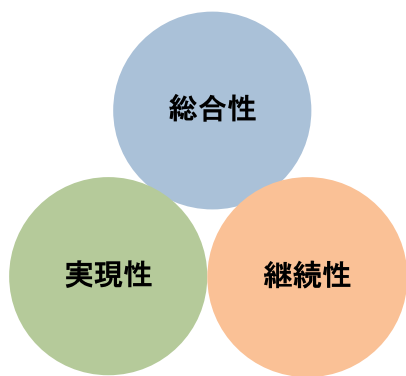
人びとの防犯に対する意識が高まった現状において、そうした環境や状況の問題点を把握する「安全マップづくり」の取り組みが各地で行われるようになりました。

安全マップには、参加者の被害防止能力、コミュニケーション能力、コミュニティへの愛着心の向上などの効果が期待されています¹。また、子どもと地域の大人が協働することにより、子どもの非行防止や、大人の子どもの守る意識にもつながります。

このような参加者の意識向上という目的に、地域課題の共有、対策の立案、さらにはまちづくりといった目的も加えることで、安全マップづくりはさらに有意義な活動になります。本書では、この安全マップづくりを、防犯まちづくりの最初のステップとして位置付けています。

4.2 ポイント

以下は、具体的に安全マップをまちづくりにつなげるための3つのポイントです²。



総合性

地域安全マップは主に防犯上の視点から作られるため、提案される改善策も防犯を単目的とするものになりがちで、必ずしも生活の質の向上につながりません。防犯だけでなく交通安全、バリアフリー、景観や歴史など調査項目を広げることは、まちづくりにおけるトレードオフの気付きにつながり、まちの総合的な魅力の向上になります。その際、単なるネガティブチェックに留めず、まちの資源や良い所を探すことも必要です。

¹ 参考：東京都青少年・治安対策本部大東京防犯ネットワーク「地域安全マップをつくろう！」

² 樋野公宏「地域安全マップから防犯まちづくりへー板橋区及び松山市の3地区6小学校区での実践を通してー」、2007年8月、「住まい・まち学習」実践報告・論文集8

実現性

多くの場合、地域安全マップは子ども（と先生）だけで作られますが、発見した課題を解決するためには地域の大人の力が必要です。パトロールを行っている地域であれば、普段の活動のなかで発見したことをマップに加えてもらうなど、地域の大人もマップづくりに参加してもらいましょう。また、多様な主体が協働し共通認識を持つことで、それぞれの役割に応じた多様な対策が可能になります。着実な実現のためには、できれば専門家の協力を得て、改善のための提案や計画などにまとめることが望ましいです。

継続性

多くの学校で取り組まれている地域安全マップは、一度作ったら終わりの単発的な取り組みです。意識や能力の向上のためには、特定学年の単元として毎年実施すべきですし、まちづくりの観点から日々変化する地域環境に対応する更新が必要です。

コラム：楽しく取り組める工夫

“ガリバーマップ”（愛媛県松山市立久米小学校）

まちあるきの班別にマップをつくるのではなく、参加した子ども全員が靴を脱いで一枚の大きな地図に乗り、コメントを書き込んだり、写真を貼ったりしました。小人の国を訪れたガリバーになったつもりで、地図上の道路を歩くことができます。



“未来スケッチ”（愛媛県松山市荏原地区）

一般的な安全マップづくりのプログラムでは、子どもの役割は課題発見に留まり、対策の立案は地域の大人に委ねられがちです。この地区では、子どもたちが地域課題の解決の方向性を見出しやすいよう、思い描く地域の将来像を「未来スケッチ」として描いてもらいました。



4.3 方法

調査範囲

子どもたちの安全の確保のため小学校区を範囲とする例が多いようです。ただし、小学校区が広い場合、まちあるきで全てを調査することはできないので、事前にアンケートを行って範囲を決めたり（9頁参照）、通学路や子どもの遊び場などを重点的に調査したりすることも考えられます。

調査時期

安全マップづくりを防犯まちづくりにつなげるには、できるだけ多様な関係者に参加してもらうことが大切です。

また、まちの様子は昼と夜、夏と冬（樹木や雪の影響）でも異なり、建物や土地利用も年々変化します。そのため、継続的に調査を実施することも重要です。

当日の持ち物（東京都板橋区立志村第一小学校の場合をもとに）

- 名札
- 地図
- クリップボード
- カメラ
- 筆記用具
- 記入カード（メモ帳、付箋紙）
- 暑さ対策（帽子・水筒）や寒さ対策（手袋、マフラー）
- リュックサックや肩掛けのかばん
- ポリ袋（ゴミがでた場合、持ち帰る）
- 時計・携帯電話（大人）
- 救急セット（万が一に備えて）
- ボランティア保険（万が一に備えて）



留意点

安全マップは、犯罪が起こりやすい場所を表示した地図であって、「犯罪発生マップ」（実際に犯罪が発生した場所を表示した地図）や、「不審者マップ」（不審者が出没した場所を表示した地図）とは区別しなければなりません³。犯罪が発生した箇所、不審者が出没した箇所については、その環境に原因がないか調べて、その原因を安全マップに書き込みます。

³ 東京都青少年・治安対策本部大東京防犯ネットワーク「地域安全マップをつくろう！」

安全マップづくりの一般的な手順

安全マップの作製は以下の手順にあるよう、まず参加者に安心・安全の視点の学習を行い、実際にまちあるきを行い、問題点をマップにおとしていきます。



1 ガイダンス

防犯、交通安全など調査の視点、マップ作りの意義を参加者に学んでもらう。また調査全体の流れを説明します。



2 まちあるき

ガイダンスで学んだ視点をもとに、実際にまちを歩いて問題箇所を発見します。子ども110番の家や交番など安心できる場所も確認しておきましょう。必要に応じて、地域の方の突撃インタビューするのもよいでしょう。



3 マップづくり

まず、まちあるきで通ったルートを記入します。目印となる駅や店舗が書かれていない地図の場合は、それらも記入します。そして、まちあるきで発見した問題箇所を、種類別に色を換えてプロットします。それらの箇所には、コメント、写真やイラストを添えます。



4 課題の共有

マップづくりで発見した課題を地域で共有するため、発表会を行ったり、冊子にまとめて回覧・配布したりします。公共施設など多くの住民の目に触れる場所に掲示したり、ホームページに掲載する事例も見られます。

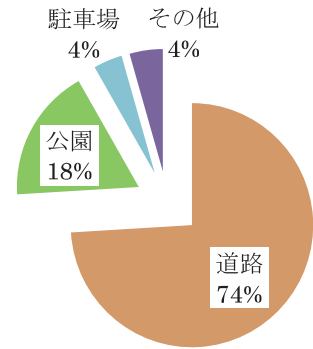


調査結果の分析・課題把握の方法

東京都板橋区立志村第一小学校では、作成された安全マップに書かれた問題箇所を土地利用別、危険の種類別に分類しました。防犯上の課題は地域によって大きく異なりますが、このような方法で自分たちの地域が抱える課題の概要を知ることができます。

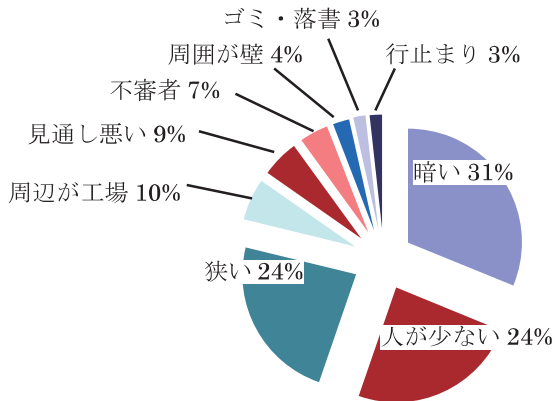
指摘のあった 158 箇所
中、公園と道路上の指摘
が 9 割を超える。

■犯罪不安箇所（158箇所）

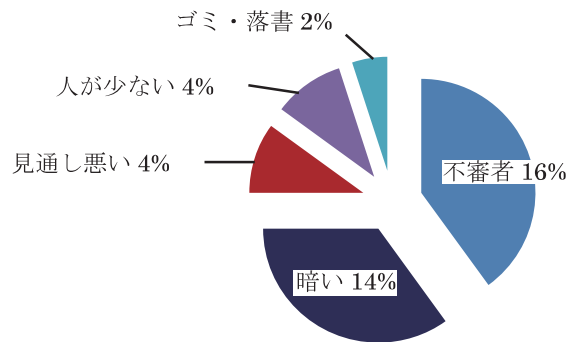


危険の種類は、道路で「暗い」、「人が少ない」、「狭い」が多く、公園では「不審者が出た・出そう」「暗い」が多いという結果でした（1箇所でも複数の内容が指摘されることもあります）。

■道路（117箇所）



■公園（28箇所）



出典：地域安全マップにみる住宅地における犯罪不安箇所の空間特性
H17 国土交通省国土技術研究会 樋野公宏

4.4 詳細調査に向けて

安全マップを通して把握された地区の問題に対して、以下の詳細な調査で問題の要因を明らかにし、防犯まちづくり計画の作成と活動の実践へとつなげます。

参考:情報収集について

1. 安全マップの作成支援

地元の自治体や警察などが作成の手引きを作ったり、指導者養成講座などを行ったりしている場合があります。例えば東京都は「地域安全マップ作製指導手引き」を作成し、「東京都安全・安心まちづくりアカデミー」の一環として「地域安全マップ作製指導員」の養成を行っています。また、北海道では学校での学習プログラムのなかで「危険箇所マップづくり」が紹介され、調査シートなどが提供されています。

(大東京防犯ネットワーク)

<http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/>

(北海道立北方建築総合研究所「住まいとまちの学習プログラム集 2」)

<http://www.hri.pref.hokkaido.jp/news/program.html>

安全マップづくりの準備段階では、ベースとなる地図の確保がネックになる事例が少なくありません。子供の安全プロジェクトチームによる「親子で一緒に考える子ども安全ホームページ」では、プリントアウトして使える地図と、「子ども安全マップ作り方手引き」を公開しています。

<http://kodomo-anzen.jp/>

2. 安全マップの事例紹介

タイトル	HPの紹介、入手方法
松山市久米地区における地域安全マップづくり報告	独立行政法人建築研究所「すまい・まちづくりの防犯に関する研究のトピックス」、『新都市』vol. 59, no. 10
松山市久米地区における「続」地域安全マップづくり報告	独立行政法人建築研究所「すまい・まちづくりの防犯に関する研究のトピックス」、『新都市』、vol. 62, no. 7

3. 調査・研究の紹介

タイトル	出典等
樋野公宏「地域安全マップから防犯まちづくりへー板橋区及び松山市の3地区6小学校区での実践を通してー」	「住まい・まち学習」実践報告・論文集8(2007)
樋野 公宏、真鍋 陸太郎、小出 治「各種主体との協働による地域安全学習の成果と課題」	都市計画報告集 Vol. 3-2 (2004)
樋野公宏「地域安全マップにみる住宅地における犯罪不安箇所の空間特性」	平成17年国土技術研究会
樋野公宏「安全マップを軸とした継続的な安全・安心まちづくりー松山市久米地区の事例報告」	都市住宅学 2008年秋号